

平成31年度 京都府立舞鶴支援学校行永分校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）計画段階

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>学習指導要領や学校教育の重点に基づく指導と実践に努める。</p> <p>1 特別支援教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 個別の教育支援計画の活用を図り、一人一人のニーズに応じた指導・支援を推進する。</li> <li>○ 医療・関係機関との連携を図るとともに専門性の向上に努める。</li> <li>○ 言語活動、コミュニケーション能力の育成及びキャリア教育の充実により自立と社会参加を目指す。</li> </ul> <p>2 学力の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 個別の指導計画に基づき、具体的な指導目標や指導内容を明確化し、基礎・基本を重視する授業の創意工夫に努める。</li> </ul> <p>3 心身の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 心身の状態を的確に把握し、家庭や医療と密接に連携を図り、計画的・効果的な自立活動や教科指導の充実に努める。</li> <li>○ 基本的な生活習慣を確立させるとともに、命を大切にする心、相手を思いやる心等、豊かな人間性を育む心の教育を推進する。</li> </ul>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 急な入院、入所にも対応し、教育活動が円滑に実施できている。</li> <li>・ 医療機関からのさまざまなニーズにしっかりと応えている。</li> <li>・ 行事の出来栄えから、教職員の熱心な指導ときめ細やかな準備が窺える。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学部、部門、分掌等が横断的に協働して教育活動に取り組む。</li> <li>・ 関係機関との連携に柔軟に対応する方法を模索する。</li> <li>・ 自己肯定感や達成感を持つことができるよう、さまざまな体験活動に取り組む。</li> <li>・ ICT機器を活用し、主体的な活動を充実させる取組を実践する。</li> <li>・ 校内研修を充実させ、授業改善や自立活動の充実に努める。</li> <li>・ 個別の教育支援計画、個別の指導計画を活用し児童生徒の実態に応じた教育活動を実践する。</li> <li>・ 現代社会の情勢を踏まえつつ、教育活動に取り組む。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保護者・医療・前籍校・関係機関等との連携を深め信頼される学校づくりに努める。</li> <li>2 より良い実践をめざし、児童生徒の実態に努め、授業改善を図る。</li> <li>3 新学習指導要領に基づく実践に努める。</li> <li>4 情報機器の活用を推進する。</li> <li>5 個別の教育支援計画、個別の指導計画を活用し児童生徒の病状や実態に応じたキャリア教育を進め、社会生活への移行を図る。</li> <li>6 児童生徒・職員にとって、安心・安全な学校づくりを推進する。</li> <li>7 新校務システムの導入に向けて研修を深める。</li> </ol>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	1 児童生徒・保護者・地域から信頼される学校運営を目指す	(1) 各種会議を適宜実施し、児童生徒の情報共有に努める。		
		(2) 部門間、分掌間等の連携を図り、新学習指導要領完全実施に向けた授業づくりに努める。		
	2 防災教育、健康・安全教育の充実	(1) 防災に関する研修や避難訓練を行い、危機管理意識を高める。		
		(2) 学校を取り巻く環境から危険な事象を収集し、回避する取組を行う。		
	3 舞鶴こども療育センター、舞鶴医療センター、保護者、前籍校、関係機関等との連携	(1) 児童生徒の健康状態を把握し、医師や看護師等と丁寧な連絡調整を行う。		
		(2) 参観日や懇談会、学校行事、PTA行事の案内を徹底し、教育活動を発信する機会とする。		

小学部	1 健康なからだづくりと生命維持力の育成	(1) 関係分掌と連携し、安全と健康に留意し、心身の安定を図るよう努める。			
		(2) 医療機関及び関係機関・団体と連携し、心身の安定を図るよう努める。			
	2 主体的に学ぶ力の育成と個に応じた指導による基礎学力の向上	(1) 創意工夫のある教育課程を編成し、計画的に授業を進める。			
		(2) キャリア教育の視点からの実践により、将来を展望する力を身につけさせる。			
		(3) ICT機器を活用した授業づくりを推進する。			
	3 他者への思いやりや自らの考えを伝える力の育成	(1) 学級活動を基盤として、こころの育みを大切にし、自他共に思いやる力を身につけさせる。			
		(2) 学校行事や集団活動への積極的な参加を促し、コミュニケーション能力を育成する。			
		(3) 地域の小学校等との交流を深める。			
	中学部	1 健康なからだづくりと生命維持力の育成	(1) 関係分掌と連携し、安全と健康に留意し、心身の安定を図るよう努める。		
(2) 医療機関及び関係機関・団体と連携し、心身の安定を図るよう努める。					
2 主体的に学ぶ力の育成と個に応じた指導による基礎学力の向上		(1) 創意工夫のある教育課程を編成し、計画的に授業を進める。			
		(2) キャリア教育の視点からの実践により、進路指導を充実させる。			
		(3) ICT機器を活用した授業づくりを推進する。			
3 他者への思いやりや自らの考えを伝える力の育成		(1) 学級活動を基盤として、こころの育みを大切にし、自他共に思いやる力を身につけさせる。			
		(2) 学校行事や集団活動への積極的な参加を促し、コミュニケーション能力を育成する。			
		(3) 地域の中学校等との交流を深める。			

教務部	1 学習指導要領に基づく教育課程の編成と実施	(1) 教育支援計画、個別の指導計画による授業改善及び研究会への有効活用を推進する。			
		(2) 学習指導要領改訂に伴い研修を実施し授業づくりに活用する。			
		(3) 道徳教育を推進する。			
	2 学習環境の整備・充実	(1) 教室や教材等の整理整頓を行う。			
		(2) 校務システムの活用に向けた取り組みを進める。			
	生徒指導部	1 基本的な生活習慣の形成・確立	(1) 各学級の実践を基盤にして、友だちや役割を意識した集団活動を進める。		
(2) 社会的なルールを守り、安全に留意し、よりよい生活を目指す力を育てる。					
2 児童生徒の実態に即した人格形成と仲間づくり及び人権意識の高揚		(1) 児童生徒の交流を深めつつ、主体的な自治活動を推進するとともに、互いを尊重する心を育む。			
		(2) いじめ、問題行動等の未然防止及び速やかな対応・解決に努める。			
進路指導部	1 保護者、関係機関・団体等との連携による組織的・計画的・継続的進路指導の推進	(1) 進路に関する情報を収集し、発信する。			
		(2) 中学部卒業後の教育と生活保障について研修し、サポート体制を確立させる。			
	2 児童生徒の実態に即した教育・生活の場を確保し、スムーズに移行できる力の育成（重複部門）	(1) 関係機関との連携を図り、家庭や療育センターにおける児童生徒の状況把握と生活課題を共通理解し、進路実現に向けた取組を行う。			
3 児童生徒の個々の目標意識を高め、自らの進路を主体的に切り開く能力・態度の育成（準ずる部門）	(1) 進路学習に関する資料・情報を蓄積しながら前籍校や療育センターと連携し、継続的な進路指導を実施する。				
保健部	1 元気で楽しい学校生活の推進	(1) 医療との連携を密にし、健康状況や病状を的確に把握する。			
		(2) 基本的な生活習慣を身につける保健指導を進める。			
		(3) 児童生徒が健康に関する基礎的な知識を身につけ、病気を回復・改善できる力を育てる。			

	2 健康なところと身体をつくる取組の推進	(1) 安全な学校生活を送ることができる環境をつくる。 (2) 健康安全、医療的ケア等の教職員の研修を進めることにより、児童生徒の健康安全の意識高揚を図る。				
情報広報部	1 情報視聴覚機器活用の推進	(1) 情報視聴覚機器及び校内LANの保守管理を行い、効率的な利用環境を保つ。				
		(2) 情報視聴覚機器の利用を促進し、児童生徒の学習意欲を高める。				
		(3) ホームページから情報発信をし広報活動に努める。				
	2 教職員研修の充実	(1) ICT機器活用に関する校内研修を行い、児童生徒の情報活用能力の向上を図る。 (2) セキュリティ対策の啓発を行い、個人情報の保護に努める。				
研究部	1 児童生徒の実態・課題に応じた支援・指導の充実	(1) 教育課程の実践を共有した授業づくりを実践する。				
		(2) 授業研究を多種多様な視点で、計画的に推進する。				
	2 教職員のニーズに応じた研修・研究の推進	(1) 分掌間の連携を図り、研修・研究会を実施し、授業充実に努める。				
		(2) ICT機器を使用した授業を推進する。				
評価委員会による評価						
次年度に向けた改善の方向性						